

平成27年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

本校の目指す学校像	日本大学の建学の精神を礎とし、次の方針を掲げ、21世紀にふさわしい充実した学園生活を目指す。 (1) 一人ひとりの志を大切に、その実現を支援します。 (2) 心身ともに健康でたくましく気品ある人を育成します。 (3) 基礎学力の充実に徹します。 (4) 積極的な進路指導に力を入れます。 (5) 国際化・共生化に対応できる能力開発に努めます。
-----------	--

本校の特徴および課題	本校は、日本一のスケールと多様性や可能性を持つ総合大学、日本大学の附属高校であるという安定した基礎の上に、生徒一人ひとりの志を尊重し、その成就を支援する3コース5クラス制を敷いている。各コースの特色を活かして、1. 学力向上に関する取り組み、2. 進路指導に関わる取り組み、3. 学校生活に関わる取り組み、4. 生徒会・部活動に関わる取り組みなどを連携させ、生徒一人ひとりの目標にしっかり答えられるよう指導力の向上に、継続して努力したい。
------------	---

平成27年度取組結果	大学入試センター試験への対応を含め、日本大学附属高校推薦入学制度についても新しいシステムがスタートした。これらの制度改定を見据えた学習・進路指導改革も動き出し、秋・春の校内実力模試の実施と、その改良、テストに向けての指導も軌道に乗り始めた。進路実績も日本大学への進学率では、昨年度を上回る結果が出た。県内へ国立大学への合格実績も好調であった。また、創立50周年記念事業である右桜グラウンドの整備計画も順調に進み、学校内のトイレの改修も計画的に進み、教育環境は一層の充実に向かっている。第三桜心館建設も予定通り竣工し、新年度より新たな教育の場としてスタートする。
------------	--

目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況	A：取組目標が達成された B：目標はおおむね達成された C：課題を多く残している D：成果が出ていない
-----------------------	--

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動(教務)	①目標の設定について	①研修の充実による教員の資質向上。 ②教務事務処理マニュアルの再構築を図る ③教務作業の効率化を図る	B
	②活動の実際について	①校内研修を計画通り実施し、学級経営に関する研修、アクティブラーニングに関する研修、そして外部講師を招いた発達障害に関する研修等を行い、指導力の向上への道筋をつけることができた。また、茨城県私学協会や、日本私学教育研究所の開催する校外で行われる研修にも教員を派遣し、指導力向上へ結びつけることができた。授業公開も計画的に行われた。 ②教務事務処理マニュアルは、ほぼ完成している。最終確認等を進め、教職員の理解を進められるようにしたい。 ③各行事や事務処理作業で慣例化しているものの中で、効率化を図るための提案がいくつも出され、改善が進められている。次年度も一層の効率化を目指し、様々な意見を拾っていきたい。	B
	③活動の点検について	①公開授業と授業研修をうまく連携させ、内容を充実させたい。 教員研修は、計画的な実施を継続させ、指導力の向上に反映させていく。 ②出欠・転退学・成績処理等につき、指導要録や通知表等についてもマニュアルの一層の充実を進めたい。 ③情報処理室とも連携し、細かい部分でも慣例を見直し、効率の良い、無駄のない作業により生徒と向き合う時間を作り出せるよう、積極的に意見を出し合う形を取りたい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導 (教務)	①目標の設定について	①デジタル教材の研究推進 ②課外授業・サマースクールの再構築 ③年間行事予定の見直し	B
	②活動の実際について	①ICTの活用に関する校内講演や外部研修会への教員派遣等を実施し、授業への活用に向けた取組につなげることができたが、デジタル教材の活用に関する教科や個人の差を解消するにはいたらなかった。それでも、e-learning教材の見直しが進み、次年度に向け、高度な取組が可能な状況を作ることができた。 ②サマースクールの見直しは前進している。時期や内容、学生チューターの採用等、かなりの改善を進めることができている。課外授業については、コース学年の計画によるところが大きく、内容の改善までは進んでいないが、実力確認型、授業内容補充型、発展的内容型など、各コース学年の現状に合わせた柔軟な実施状況は認められる。 ③基礎学力到達度テストの実施時期の変更に合わせ、次年度の行事計画作成の際に大きな見直しを行うことが決まった。蓼科共同宿泊学習や桜華祭、学年末考査などがこれまでに経験したことのない時期に実施されることになり、基礎学力到達度テストに向けた学習指導の成果と、これらの新しい時期に行われる行事との関係をしっかりとらえ、29年度行事計画を一層良いものにしていきたい。	B
	③活動の点検について	①新e-learning教材の利用による学習指導を軌道に乗せることができるよう、実施に向けた手続きを着実に進める。また、ICT教育をグローバル・スタディコースで他コースに先駆け本格導入することとなったので、今後総進・特進のモデルになるような形態の構築を、情報処理室と連携して進めたい。 ②サマースクールに加え、短期合宿勉強会、長期休業中の学習会など、特進だけでなく、総進コースでも年間の指導計画に合わせた効果的な実施が可能なように取組計画を作成するよう働きかける。 ③大きな変更が教育活動に好影響を及ぼしているかどうか、慎重に確認を続け、更なる見直しにつなげていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への配慮 (生徒指導)	①目標の設定について	①基本的な生活習慣の定着と落ち着きのある学校生活の構築を目指し、4月当初より年間を通して指導する。 ②新入生とその保護者に対して、入学前の登校日と入学当初に本校の生活指導について理解を求めると指導を実施する。 ③各学年の生徒を対象に主に4月と7月に、交通安全・健康・薬物乱用防止の各教育講座を講師を招いて実施する。ネットモラルは全学年に対しDVDを活用し指導する。 ④制服着用指導を徹底するために、本校の生徒指導の原点に立ち返った指導をする。6月～9月を中心にクールビスを実施する。	A
	②活動の実際について	①頭髪・服装等に対する意識改革は概ね良好。 ②新入生登校日に保護者に向けても生活指導への理解を求めた。 ③各種教育講座は計画通り実施した。 ④クールビスを予定通り実施した。 ⑤服装頭髪については、指導の温度差を感じ、少しでも解消するべく生徒指導部が全員をチェックした。 ⑥校外でのルールやマナーについて苦情があった。 ⑦SNSが関係する指導案件が増加している。	B
	③活動の点検について	頭髪服装等に対する意識改革は概ね良好であるが、更に先生方が一枚岩で指導することが望まれる。徒歩や自転車通学者の交通マナーは概ね良好。苦情は年々減少傾向にある。登下校は事故数が昨年より減少している。自転車保険への加入や整備点検、通学路の安全通行を促した。SNSが関係する件のモラル向上へ努めていく。今後も指導を継続していく。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
生徒会・部活動 (生徒指導)	①目標の設定について	①一般生徒も学校行事に積極的に参加・協力する体制を築くため、前年度末より活動を開始し、継続性を持たせることで生徒会・各委員会の充実と積極的な活動を促す。 ②運動部・文化部の活性化と加入率の向上を目指し、新入生には入学後から加入を働きかける。	B
	②活動の実際について	生徒会活動では、これまでの日本大学生徒会サミットやエコキャップ回収活動に加え、ボランティア活動にも参加するなど活性化されてきた。今年度は土浦警察署主催地域安全運動に伴う街頭キャンペーンへの参加など精力的に活動した。残念ながら運動部の男子においての連続県総体総合優勝は果たせなかった。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	①新日大付属推薦システムへの対応 ②国公立大学、難関私立大学合格者数の増加 ③推薦入試、調査書、進路統計、各種調査報告等への適切な処理・運営④進路指導部教員による進路講演会の実施⑤国公立大学対策室、基礎学力到達度試験対策室の創設にともない、両室との連携を強化し、進学実績を高める業務を推進する。進路指導部の掲げる目標としては妥当だったと思われる。	A
	②活動の実際について	①平成28年4月12日現在で、日本大学合格者数は合計で300名に達し、昨年度を超え、目標が達成できた。付属推薦入試でも274名が合格し、大幅に増加した。2学年については日大出張講義などを通して、日本大学の魅力について伝える機会を多く設けることができた。新付属推薦システムについても、早めの対応により特に問題もなく試験を終えることが出来た。②他大学は、一橋大学1名を始めとし、国公立大学合格者67名、難関私立大学合格者は、早稲田12名、慶応5名、上智5名、明治16名、青山学院5名、立教8名、中央9名、法政7名、東京理科大11名となり、昨年度に続き順調な結果になっている。筑波大学に26名の合格者を出すことができた。そのうち10名は推薦入試による合格者で、推薦対策指導の充実が実を結び、県内トップクラスの結果となった。③調査書や資料を発行する上では特に問題はなかった。多様化する入試に対しての指導対策の更新、情報処理システム変更、模試や統一テストの分析では毎年課題が突きつけられている。進路指導資料の発行も、活用しやすい時期、早めの発行に努めたい。④年度当初に各支部から保護者向け進路講演会でコースや学年の現状に合わせた付属推薦入試および一般受験対策の適切な進路情報を進路指導部員が提供することができた。	A
	③活動の点検について	①新しい付属推薦システムについては、大学からの情報をできるだけ早く教職員会議を利用して周知するよう心がけ、理解・対応が迅速であったため、特に問題もなく実施できた。 ②一般入試の出願先決定へに向けて、進路指導部がどうその検討に関わるか、再検討する。一方で新しい大学入試の方向性を見据え、英語の資格検定を利用した入試に向けた、研究を開始できた。これを継続したい。 ③作業をより円滑に進めるため、一般入試、日本大学新推薦制度に対応するシステムを、情報処理室と連携して、新付属推薦システムによる審査資料等の準備を進めた。 ④日本大学附属推薦入試の初年度ということもあり、保護者への説明は、新制度に纏わるものが大きなウェイトを占めた。今年度の経験を生かして、さらに情報提供を充実させたい。 ⑤国公立大学対策室、基礎学力到達度対策室との連携の適否、成否等について十分に点検し、改善策を打ち出した。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
体育施設	①目標の設定について	①総合体育館，②出島グラウンド合宿寮，③右靱桜グラウンドの改修と改良工事を進める。 目標設定に問題はない。	B
	②活動の実際について	体育館のトイレ・パイプ椅子，出島合宿寮の内装などの改修については，計画的に進められている。右靱グラウンドの改良については，計画立案が進んでいる。経年劣化による破損などについては，監察・点検を強化し，安全な教育環境の維持向上に努める。	B
	③活動の点検について	総合体育館は事務室と連携し，経年劣化による破損箇所の点検・修理作業を強化する。右靱桜グラウンドは芝のサッカーグラウンドも完成し今後は使用方法を検討し大切に利用していく。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
保健衛生	①目標の設定について	生徒及び教職員の健康の保持増進と，生徒の安全・安心を確保した教育環境の充実，また，感染症対策・いじめ防止対策の更なる充実を図っていく。 目標の設定については問題がないと考える。	A
	②活動の実際について	健康診断結果に対する適切な指導はできている。安全衛生を考えた環境施設の整備も計画的に進められている。また年間を通しての学校欠席者情報システムが機能を発揮し，感染症への早期対応に貢献し，校内での流行を最小限に抑えている。教職員対象の救急救命講習は，計画的に実施され，受講修了者数は順次増加している。また，新法施行に伴う組織と基本方針の策定を終え，いじめ対策室が設置され，相談体制などの一層の充実を進めていくべきである。	B
	③活動の点検について	各種調査やアンケートの結果を特定の担当者だけではなく多くの目で精査し，些細なことも見逃さないよう連携を密にしている。対策の一層の充実のため，情報の共有化を進める。全教職員の救急救命講習受講完了を目指す。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	生徒一人ひとりが学校生活に適応するための支援をする。 ①新入生に対する教育相談ガイダンス・エゴグラムを入学当初に実施する。 ②学校不適応調査・高校生活に関する調査を年6回実施する。 ③年3回の高校生活に関する調査で教育相談に関する項目を継続調査する。 ④カウンセリングを随時受け付ける。 ⑤保護者に向けて教育相談に関わる情報を発信する。	A

②活動の実際について	<p>①新入生に対する教育相談ガイダンス・エゴグラムを計画通り実施することができた。</p> <p>②学校不適応調査を年6回、高校生活に関する調査を年3回実施し、担任・生徒から調査で挙げられた情報を教育相談部で共有し関係部署、管理職にも報告し、担任・生徒への支援に役立てた。</p> <p>③カウンセリングについては、生徒・担任に教育相談部から働きかけたり、必要に応じて保護者のカウンセリングを打診するなど適宜対応した。</p> <p>④特別支援教育としての個別指導計画を立案するケースが生まれたことは、今後のモデルとして意義があった。</p> <p>⑤保護者への情報提供については、入学前の登校日をはじめ保護者会の機会などを活用した。また、保護者との個別面談を実施して、悩みを抱え込んでいる生徒のサポート策を提示した。</p>	A
③活動の点検について	<p>①新入生に対する教育相談ガイダンス・エゴグラムの実施に関する反省会を行う。</p> <p>②学校不適応調査を年6回、高校生活に関する調査報告をすべての管理職に行い、内容について学校全体でチェックできるシステムを導入する。</p> <p>③カウンセリングについては、生徒・担任に教育相談部から働きかけに妥当性があったか。学校組織としての活動が出来ていたかを検討し、不足があれば改善してゆく。</p> <p>④特別支援教育としての個別指導計画については、管理職、コース責任者、担任との連携を重視して十全に機能できるように配慮する。</p> <p>⑤保護者への情報提供については、主任が管理職に報告し、指導を仰ぐようにし、組織的な点検を行う。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
図書	①目標の設定について	図書の選書購入に際し、生徒・教員からのリクエストを求め、要望に答えながら、専門分野の充実に努める。	B
	②活動の実際について	選書にあたり、図書館スタッフの選書だけでなく、各教科の教員にも授業研究や調べ学習等に必要な資料等の申請を依頼し、連携を密にして、ニーズに合った、分類に偏りが出ないような参考図書や必要資料等の内容の充実に努めた。 今年度は、地歴公民分野の蔵書の見直しを行った。地歴公民科担当教員に蔵書確認を依頼、授業で不足している資料については、状況を確認し補充した。書架が整理され、購入資料もスムーズに配架できた。	B
	③活動の点検について	専門分野の入れ替えについては難しい部分があるため、年度を定めて他教科・分野も見直しを実施したい。また、図書館利用の多い国語科や家庭科教員には、視聴覚資料含め、授業に必要な資料等のリクエストを一層募りたい。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	本校受験者数の増加を目指す。その実現に向け、①SNSを利用した広報活動の充実。②情報入試作業マニュアルの作成。③情報収集及び共有化を図り密度の濃い広報活動を行う。 目標設定は問題がない。それを中心に、より良い方法でタイムリーな広報活動を心掛けた。	A
	②活動の実際について	①本校ツイッターの現在フォロワー数237名までになり宣伝効果が現れている。本校ホームページの更新も着実に、その頻度も上がっている。それ以外にタイムライン（ホームページの紙面版のようなもの）を発行し、中学校の教室に掲示してもらい、積極的な広報を実施。日本大学付属推薦制度の変更についての広報を充実させ、他私立高校との差別化から併願者の増加を図った。②情報入試作業マニュアルについては各イベント毎のデータフォルダに作業内容のデータを残している。年間の作業スケジュールが今後の課題。③情報入試室の打合せを毎週月曜日の1時間目に行い、前週の報告・今週の内容確認・企画の進捗状況の確認等を共有し、より良いものへと改善することが出来た。学校全体への共有化が今後の課題。 その結果、海外入試志願者数212名。単願推薦志願者数277名。併願推薦型志願者数598名。一般志願者数2177名。計3264名となり受験者数の増加は達成できた。	A
	③活動の点検について	情報入試室の打合せを毎週月曜日の1時間目にしたことにより、常に入試室内での活動の点検を行っていくことが出来た。ただ、多岐にわたる活動であり、それぞれ個人に対する負担が多く、漏れがないように点検し実施していくのが大変である。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (教学)	①目標の設定について	①教育方針と指導目標の明確化②校務分掌機能の高次元化③学校自己点検評価の活用④教育環境の充実維持以上を整え、「調和の精神を尊ぶ青年が育つ、活気あふれる進学校」を目指す。	B
	②活動の実際について	①②世代交代が進む中、新採用教員が指針とできる明確な目標を掲げる形が取れた。「いじめ防止対策」「国公立大学対策」「基礎学力到達度試験」3つの対策室が立ち上がり、それぞれの機能を果たすために教職員が一丸となって教育活動にあたり、具体的な成果につなげることができてきている。③学校自己点検評価を学校全体の活動点検の大切な資料として活用するため、作業マニュアルの整備や情報共有のための方策が整えられつつある。④教育環境整備は50周年記念事業を中心に、右糸桜グラウンドの天然芝醸成、校舎のトイレ改修、第三桜心館の建設など着々と整備事業が推進されている。	B
	③活動の点検について	どの目標に対しても、「PDCA」のサイクルを常に意識し、点検と改善に努める。	B
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①教育環境の充実化を目的とした計画的な業務の遂行②校務機能の高次元化③学校自己点検評価の活用	A
	②活動の実際について	教育的・社会的に意義があり、寮生増の現状に應えるため、(仮称)第3桜心館の建設工事を計画、工事は順調に進み竣工している。また、当年度予定した出島合宿寮内(舎監室・食堂)の改修、校舎内のトイレ改修についても計画どおり完了している。そして、不慮の破損時におけるその対応等も、適時行い、教育環境の整備・維持等は概ね順調に進んでいる。	B
	③活動の点検について	どの目標に対しても、昨年度に引き続き、「PDCA」のサイクルを常に意識し、点検と改善に努める。	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
庶務	①目標の設定について	大きく3つの目標①式典や父母と教師の会の行事その他庶務事項の更なる改善をめざす。②防災・安全・危機管理などを強化する。③同窓会代議委員会の開催および専門委員会活動の活性化を推進し同窓会の活動をより活発にする。	A
	②活動の実際について	①支部調査票の事前入力 that 定着し確認作業がスムーズに出来た。入学式・卒業式は例年通り進めることが出来た。年次総会は保護者用の駐車場として水郷公園・右糸桜グラウンド・市役所職員駐車場を借りることができた駐車場問題を改善された。研修旅行の申込みも大変多く、大盛況で満足いくものになった。②帰宅経路情報を計画的にまとめることが出来るようになってきた。緊急情報メールシステムを導入することで、HPの緊急掲示板だけでなく学校行事の緊急対応等で活用出来た。③同窓会代議委員会を開催することが出来た。若い学年幹事が入り専門委員会も活動を開始することが出来た。新会長による新たな事業計画を実施した。	B

③活動の点検 について	①式典・年次総会は各係毎に意見もらい，改善につなげる方式が定着してきた。今後も進めていきたい。②年度ごとの更新になるので，より良いものになるよう担当内で話し合っていく。 ③同窓会事務局長と常任幹事会の議事録から，今後の活動について検討していく。	B
----------------	---	---

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (含スポーツクラス)	①学習指導	<p>① 1 学年：小テストや週末課題に取り組ませることで家庭学習の習慣化を図った。学習調査票を活用し生徒自身が学習に対して日々自己研鑽ができるように企図した。またこの調査票や高校生活調査活用して、生徒一人一人の学習状況を掌握し指導に当たることができた。</p> <p>2 学年：2 学年生徒として、生徒の様子に落ち着きが見られ、学習へ取り組む姿勢が見られるようになった。課題プリントは精力的に取り組む傾向にあるので、授業ノートをしっかりとる習慣をつけることを求めながらも、両者を併用して、より積極的に学習に取り組ませる必要がある。</p> <p>3 学年：4 月に入試に直結する「基礎学力到達度テスト」が実施される事もあり、学年が変わった直後からの学習に対する取り組みは例年以上のものが見られた。担任の指導により4 月以降も学習に対する意識が高い生徒が多くなった反面息切れ状態の生徒も見られているので、今後は長いスパンの中でのメリハリのある学習指導体制作りが必要と思われる。</p> <p>スポーツクラス：基礎学力到達度テスト対策として、成績上位者のみならず、成績下位者の底上げを企図した。低学年次は明確な目標を持つことの大切さを理解させることに努めた。学年が進むにつれ授業を主体的に学ぶ姿勢が見え、3 年次の進路にもよい結果を残せた。</p>	B
	②進路指導	<p>② 1 学年：進路ノートを活用することで自己理解と職業や社会の仕組みについて理解させることができた。また、卒業生講演会で先輩方の実体験を聴いたり、進路ガイダンスやオープンキャンパスに参加したりすることで、大学についての知識を深め、生徒自身が自分の将来について深く考えることができ、進路に対する意識付けがなされた。</p> <p>2 学年：大学と高校の違いを認識しはじめてきた。ただ、大学で何をやるのかではなく、大学が何をしてくれるのかという意識はいまだに強い。学部の特徴などを継続して研究しながら日本大学への進学意識を高めていきたい。</p> <p>3 学年：目標であった日本大学進学250名を超えることができた。また、日本大学以外にもAO入試で慶応大学に進学から1名・スポーツから1名の合格者が出せた。日本大学に関しては、新しいシステムで手探りの状況の中、進路指導部・対策室・GSコースと連携して、共通理解を深めながら指導できた。特別推薦や指定校推薦に関しても、コース間・クラス間で不公平感なく人選ができた。</p> <p>スポーツクラス：全スポーツクラス対象の進路ガイダンス等で、大学入試の仕組みや自己実現に向けた準備の大切さや計画的な学習の重要性について認識を促す指導を徹底した。</p>	B

	③生徒指導	<p>③ 1 学年：4月当初より、安易な欠席をしないことを指導してきた。出席率は目標である99.0%を達成している。次年度も安易な欠席をしないことを継続的に指導していきたい。クラス担任による二者面談やHRを繰り返し行うことで、細かな部分まで生徒把握ができていた。また、家庭とも連絡を密にすることで、情報を共有することができた。</p> <p>2 学年：クラス替え後の新クラスへ順応することが、生徒にとって意外に困難であったようで、新しい環境に慣れるまでに相当の時間を費やした。2年次の新クラスとは、生徒にとって入学時よりもストレスのかかることのように、学級開きの際、新入生と同様の扱いが必要であったと思う。教室の美化は、生活全般に影響を与えるとの認識を持ち、毎日の清掃活動、学期末の大掃除、行事前の大掃除など積極的に参加することを奨励した。</p> <p>3 学年：3年間を通じて、多くの生徒が落ち着いて規則正しい学校生活を送れた。先生方の継続的な面談や指導の表れだと思ふ。服装・頭髪を逸脱している生徒もわずかに居たが、それに同調するような雰囲気はほとんど無かったのも良かった。さらに、人間関係のトラブルもほとんどなく3年間の学校生活を送れていた。</p> <p>スポーツクラス：集団生活での規律を養い、模範的な行動を主体的に行うことができつつある。スポーツクラスの生徒が挨拶を率先して行うことで学校を明るく爽やかリードすることができた。</p>	B
	④特別活動指導	<p>④ 1 学年：蓼科宿泊学習では、班で協力することで、他者と協力することの重要性を理解することができた。また、体育祭、スポーツ大会においては、各クラスともに一致団結している姿や互いを応援する姿が見られ集団の一員としての自覚が芽生えてきた。学年集会での校歌斉唱も概ねよくできており、クラスや本校への帰属意識の醸成を図ることができた。</p> <p>2 学年：修学旅行が2学期に変更になったことで班別自主研修の計画が組み直しになり、十分な事前学習ができなかった。全体としては長崎・沖縄の戦時中の様子を描いたドキュメンタリーを視聴させたり、長崎原爆被害を学習する課題図書を読んだりして平和学習に取り組んだ。</p> <p>3 学年：委員会や部活動等、様々な場面で最高学年の生徒として活動はしているが、主体となって学校を牽引しているかという点、やや物足りなさがあった。</p> <p>クラブ引退後も、顧問と連携を取りながら指導をしていくことで、全体的には落ち着いている状況であった。</p> <p>スポーツクラス：卒業生・社会人・教養講座などを開催し、意識の高揚と人間形成に努めた。その結果文武不岐の精神の重要性への認識が深まった。</p>	B
校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況

特別進学コース	①学習指導	<p>進路実績に繋げるために、各学年とも高い目標を掲げている。各学年とも様々な手を尽くして指導した。特にLHR・総合学習を利用し、小論文指導、ディベート大会、各種プレゼンテーション大会などを通じて思考力・判断力・表現力の養成に力を入れた。</p> <p>1 学年：学習スタイルが高校受験に対応した暗記中心の型であり、一つの物事について深く考察することに慣れていない生徒が多かった。記憶力に頼る学習スタイルから、常に根拠を問う思考をし、物事の本質を理解する学習スタイルへ移行させることを目標とした。その際、思考力を鍛えて文章や問題の構造が理解できれば、入試問題を解くことができることを生徒に伝えた。その結果偏差値60以上の生徒が増加するなど一定の成果はあったが、過年度と比較するとまだ上位層が少ないのが現状である。</p> <p>2 学年：高い目標を掲げるが、細部に渡るまで徹底して取り組めない生徒に対して、弱点を分析し、何をやらなければならないのか具体的に指導し、個々の学習プログラムを作成し、それに沿って学習に取り組ませた。特に英語と国語においては到達度チェックシートを作成し、生徒個々の状況に合わせた学習の取り組み目標や計画を立てて、生徒自身は勿論、教員にとっても生徒の到達度の確認が容易にできるようになった。</p> <p>3 学年：学習量が不足しており、基礎が固まっていない生徒が多くいた。そこで個々の生徒との面談を頻繁に行い、時間を有効に使うことの重要性を理解させた。朝学習を奨励し、授業に主体的に参加させ、放課後の課外を充実させ、夜学習にも極力参加させた。学習量を増やすため、休業日、休日、長期休業期間などにおいて、自学習の機会を増やした。しかしながら、最上位層、最下位層への対応に追われてしまう面があった。</p>	B
---------	-------	--	---

②進路指導	<p>卒業生数が昨年の181名から157名へと減少したこともあるが、私立大学の合格実績では全体としては数字は減少した。国公立大学については、推薦入試で大きな成果を示すことができた。しかし、全体の合格実績の上積みに向けての努力は、まだまだ必要である。</p> <p>1学年：オープンキャンパスへの参加を促し、大学入試のスケジュールや受験方式の多様化などについて理解を進める事ができた。模試の返却時には、昨年度に東大、筑波大、茨城大に合格した卒業生の同回成績を提示し、事後ワークシートを用いながら現在の実力と目標大学の差を数値化させ、具体性をもって進路意識を掻き立てることが出来た。</p> <p>2学年：オープンキャンパスへの参加を促すほか、大学・学部・学科研究を進め、自分がやりたい研究がどこでできるのか、理想とする大学から、最低限研究できる大学を幅広く研究し、自宅からの距離やネームバリューだけで進路を決定しないように指導した。</p> <p>3学年：小論文・プレゼンテーション・面接などの指導に力を入れた結果、昨年度に引き続き筑波大学10名の推薦入試合格者を出すことができ、県内2位となった。大学名の持つイメージで受験先を決めている生徒に対しては、その学部・学科で何が学べるのかといった興味・関心に沿った進路の研究をさせた結果、国公立大学の公募推薦に挑戦する生徒が増えた。</p>	B
③生徒指導	<p>1学年：各担任の指導の下、多くの生徒が規律ある行動をとることが出来た。いじめやネット被害といった問題に苦しむ生徒もなく、生徒観察と情報共有が上手くいった。一部の生徒にだらしない生活が見られたが、本人たちの自覚と成長を見守りながらも、継続的に指導していきたい。</p> <p>2学年：明るく素直な生徒が多いが、頭髪が若干だらしくなる生徒もいる。ミニスカートや腰履きにする生徒も少なく、概ね落ち着いた高校生活を送っている。</p> <p>3学年：頭髪・服装なども基準を大きく逸脱する生徒はいないが、注意すれば従うという態度であり、自主的に規則を守ろうという意識をもっと植え付けたかった。</p>	B
④特別活動指導	<p>各学年とも文化祭・体育祭・スポーツ大会への積極的参加は、クラスの団結確認の良い機会にできている。ディベート大会やビブリオバトルなどの文化的な行事にも積極的に取り組んでいる。しかし、校外学習、大学訪問などが一過性の行事になっていないか心配される。活動の意義を改めて考え、目的を共有していきたい。事前活動は「調べる→発表する」の構成から深化させ、生徒同士の学びあいの充実を図りたい。事後指導を確実に言い、文章で表現する機会を増やしていきたい。</p>	B
⑤学級経営	<p>学級は、全ての生徒に対する指導の基盤となる場であるとの考えに基づき、二者面談の定期的な実施を促進した。学習指導、生活指導の成否は担任との信頼関係が最も重要であるという意識を持って、学級経営に臨んでいる。個々の生徒の個性をよく勘案して、指導している。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
グローバル・スタディ コース	①学習指導	<p>3年間で問題解決能力を身に付けることが目標である。</p> <p>1学年：学習方法の点検や習慣の確立を目指した。取り出し授業で最上位層を強化するとともに、オーストラリア短期留学やスピーチ練習などを通じて、論理的思考力の基礎的な部分を強化することでおちこぼれを出さない状況を作ることができた。</p> <p>2学年：基本的に学習に取り組む姿勢が身に付いてきている。アメリカ中期留学に付随するレポート作成やディベート大会に付随する調べ学習で、論理的思考力、問題解決能力の向上につなげることができた。また、最上級学年に向け、生徒の得意分野や興味関心のある分野を深化させることができた。</p> <p>3学年：英検・TOEICなどの資格試験取得を含め、推薦入試に向けての小論文や面接、志望理由書作成練習などによる指導態勢を強化した。推薦入試に向けた準備は順調に進み、問題解決能力の醸成ができたと思う。日大基礎学力到達度テストへの適応もできた。</p>	A
	②進路指導	<p>コースの持つ特性を生かし、推薦入試を上手に利用した進路指導を目指している。</p> <p>1学年：職業研究・大学の学部学科研究を進めることで、学ぶことの重要性を理解し、進路に対する興味関心を向上させることができた。</p> <p>2学年：大学入試の方法を研究させることで、知識を具体的なものに発展させ、自分に合った受験プラン作成までつなげられた。</p> <p>3学年：推薦入試に向けた指導を早期に開始し、各種作文の添削指導、面接指導を回数を重ねて実施することができた。一般入試に対する受験対策は、周囲に惑わされず集中して取り組むムードの維持が課題となっている。</p>	B
	③生徒指導	<p>SNSに関するトラブルも特になく、基本的に落ち着いた生活を送ることができた。服装・髪髪については、もう一段高いレベルで規律を尊重する必要を理解させたい。</p>	B
	④特別活動指導	<p>各学年とも短期・中期留学を初めとして、校外学習や学校行事、総合学習の取り組みには常に積極的に取り組むことができています。運動部に所属するものも多いが、吹奏楽・演劇・茶道など文化的な活動に熱心に参加するものも多かった。生徒会や委員会の中心となって活躍するものも多く、学校全体の行事をリードする活躍も多方面で見ることができた。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
情報処理	①目標の設定について	<p>①日本大学の附属推薦入試制度改革に対応した進路システムの再構築</p> <p>②岩瀬日大高校とのデータベース統合</p> <p>③保守期限を迎えるサーバーOSのバージョンアップ</p>	B
	②活動の実際について	<p>①入試制度変更の詳細な情報は推薦処理直前まで得られなかったが、大過なく推薦業務を遂行した。</p> <p>②岩瀬日大高校のサーバー障害により作業を一時中断せざるを得なくなり工程が大幅に遅れたが、難関の文字コード統合とデータベースのバージョン統合までは終えた。</p> <p>③ドメインコントローラーについては新OSのコントローラー追加により無停止で、またファイルサーバーについてはバックアップモードでのコピーを複数回実行することにより、夜間の10分程度の停止で交換作業を終えた。</p>	B
	③活動の点検について	<p>①今年度は時間的な制約のなか最小限のシステム変更となったが、次年度推薦処理までにはユーザーにとって使い勝手の良いシステムを提供したい。</p> <p>②統合の大半の作業は終わっているが、残りの一元的な更新系の確立等の最後のフェーズが残っているので、次年度重点課題として設定し、完全な統合を完了させたい。</p> <p>③32bitOSから64bitOSへの移行のため、バージョンアップではなく新規サーバーの構築になったが、20台を超えるサーバー群をトラブルなしにほぼ無停止で交換することができた。</p>	B